日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだい ニュース

第２３号
（２００２年9月３０日）

三隅先生追悼号

発行所：〒565-0871　吹田市山田丘１－２
大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室
日本グループ・ダイナミックス学会
電話＆Fax: ０６－６８７９－８０６６
発行人：堀毛一也　　編集担当：廣岡秀一

★★　*三隅二不二先生ご逝去*　★★

会　長　　堀毛　一也

本学会の発展に多大な足跡を残された、大阪大学名誉教授、三隅二不二先生が、去る５月３１日、御年７８歳にて逝去なさいました。

先生は二十有余年の長きにわたり、本学会の会長職をお務めになり、著名なリーダーシップ研究を始めとする数々の研究を通じ、日本の社会心理学の発展に貢献してこられました。１９９４年には社会心理学のノーベル賞とも呼ばれるクルト・レヴィン賞を日本人として初めて受賞なさり、その基金をもとに本学会に三隅賞が創設されたこともすでに皆様ご承知のとおりです。先生の多大なるご貢献とご指導にあらためて感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

また、このたび、喪主であるご長男譲二様、ならびにご令室善子様より、葬儀にご参列いただきました皆様のご香典へのご返礼として、三隅賞基金に多額なご寄付を頂戴いたしましたこと、謹んでご報告申し上げます。ご芳志、誠に有り難く、紙面をお借り致し、あらためて厚く御礼申し上げます。会員一同、先生のご遺志に応えるべく、学会の発展のためにさらなる努力を重ねてまいりたいと存じます。ご配慮の段、重ねて心より感謝申し上げます。なお、ご家族の皆様には、学会を代表して渥美常任理事とともに、弔問を兼ねて御礼を申し述べてまいりましたのであわせてご報告申し上げます。

本号では三隅先生の追悼特集として、生前ご交誼の深かった先生方を中心に追悼文をお寄せいただきました。また、実験社会心理学研究や５０回記念大会でも、追悼特集や展示の企画を立てております。あらためて皆様とともに、感謝の気持ちを込めて、先生のありし日のお姿を偲ぶ縁とさせていただきたいと存じます。

★★　*三隅二不二先生を偲ぶ*　★★

名誉会員　　廣田　君美

現役時代、大学院の演習テーマとして「所有と喪失の心理学」をかかげて院生に研究させたことがあった。

なぜ人が物を持ちたがるのか、たとえば若者がなぜブランドのファッションに狂奔するのか、どうして大きなカットのダイヤの指輪をはめたがるのか、といった最も社会的で現実的な問題に社会心理学者は答えてこなかったのである。さらには人はある対象（所有していた）を喪失した場合に泣いたり悲しんだりするが、喪失の心理については全く不明であったからである。とくに、親近者の死亡、自然災害による家屋や財産の喪失、リストラによる仕事の喪失などといった、その人の人生すべてに関わるような喪失感の研究など皆

無であった。この問題を取り上げたのは、実に重要な社会問題であると言うこととともに、所有と喪失がディトマー（Dittmar,H.）の社会的アイデンティティ理論によって統一的に説明できると考えたからである。もっともディトマーは「社会的所有」の分析に集中し、喪失は取り上げていない。しかし、所有と喪失は対置的に考えないで一つの連続帯上で考えたなら、喪失がより具体的かつ明確になるのではないかと考えたからである。所有とはある物についてのシンボリックな意味を共有しあうことによって成立し、個人の個人的・社会的アイデンティティ確立の自己表現であるといわれる。こう考えてみると単に物の所有だけではなく、結婚とか親友とかと言った特定の人間関係の獲得も心理的な所有と考えてよいだろう。これに対して喪失とは単に物がなくなるわけでなく、その対象についてのシンボリックな意味が剥奪され、その人のアイデンティティ確立が震駭される現象であろう。古くから日本語にある「自失」という言葉に似ている。なぜ喪失などの言葉を用いたのかと言えば、実は私にとって三隅さん（本来、先生と呼ぶべきだが。懐かしさと親しみを込めてさんと呼ばしていただく）の死は、きわめて大きな喪失であったからである。思うに三隅さんとの交友は50年に及ぶ。本当の兄弟のような関係であった。勿論三隅さんが年上であり、私は弟であった。

最初の出会いは、丁度50年前の８月であった。1952年８月４日より８月２６日まで京都大学、同志社大学共催によるアメリカ研究京都セミナーが開催され、当時コロンビア大学の教授であった知覚のオーソリティのグレハム（Greham,C.H.）教授を招いて知覚について指導を受けた。

聴講生は北は北海道大学から、南は九州大学に至る全国の知覚の専門家たちであった。毎日朝の９時から１２時まで難しい知覚や実験的手法について英語でレクチャーをうけた。このセミナーに九州から三隅さんが参加していたわけである。私は知覚は専門ではないが主催大学の研究室スタッフとして、いわば世話係として参加させられていた。三隅さんはその当時、北九州外国語大学の助教授で知覚（錯視）の専門家であった。全員で24名であったが、多くは北大、東大や京大の先生方であり、年の若い者がグループをつくる傾向があった。東大の東洋氏、大山正氏らが同じ年頃として仲よくなったわけである。三隅さんはその頃スリムでスマートな青年紳士であった。その後頻繁に会合し、兄弟のような交際が始まった。彼が九大教育学部に赴任されてより、何度かにわたって集中講義に招かれ、その都度酒食を共にして集団の問題について語りあった。彼は私に対して弟子を盛んにほめた。「○○君がこんな実験結果を出してね・・・」「△△がこんな立派な仮説を考えたよ」と優しい顔をニコニコさせながら誇っておられた。そして、「廣田さん、この問題はどう解釈したらいいだろうか」ともＰＭ理論を整合化するために実験結果の考察を与えられた。また、その当時の九大の三隅研究室には実にすぐれた元気な院生に満ちており、なにか圧倒されるようなバイタリリティがあった。原岡さん、黒川さん、安藤さん、白樫さん、佐々木さん、佐藤さん、田崎さん、篠原さんなど、現在のグループダイナミックス学会を牽引している後継者一期生がゴロゴロしていた。だから九大へ講義に行くのが楽しみであった。この若い連中と三隅さんとでマージャンをやるのも楽しみだった。彼は決して上手ではなかったが、多忙の中での彼の暖かいサービスだったと感謝している。福岡へいくと、いつも三隅さんの車（確かヒルマンであったと思うが）に乗せてもらったが、これがまた運転が荒っぽいこと。いつも助手席で汗を握りながらヒヤヒヤしたことを思い出す。ほんとうにいい兄貴であった。こんな兄貴が亡くなったのが、最初に述べた大きな喪失感であり、呆然自失なのである。もう彼の著書や写真以外は絶対会えないのだと思うと、猛烈に寂しくなる。いつものように元気で暮らしておられると思い込んでいたから、電話で逝去を聞いた時はほんとうに呆然自失の喪失感であった。彼は人生を走り去ったのだ。余りにも活躍しすぎたのだ。しかしグループ・ダイナミックスという世界に類を見ないユニークな学会を設立し、1000名を越えるような会員をもつ業績を果たした人が、今までの文化勲章受章者の中にいるであろうか。米国にもこんなユニークな学会はないではないか。そんな意味でグループ・ダイナミックスという新しい科学を植え、育て、大樹にまで成長させた彼の功績は文化勲章以上のものだと断言したい。ただ彼が学会のアイデンティティの中核であったため、彼の亡きあと学会が衰退したり、崩壊したりすることがあってはならない。米国のグループ・ダイナミックスの研究がクルト・レビンの直弟子の世代から第二世代に移るとともに衰退していったように、日本でも彼の第一世代から第二世代へ交代しつつあるが、彼の意志をついでますます発展させていくよう努力したいものである。三隅さん、長い間グループ・ダイナミックス学会のためご盡力本当に有り難うございました。

ゆっくりお休みください。

★★　故 三隅二不二先生を悼む　★★

名誉会員　　安藤　延男

本学会の元会長 三隅二不二先生が、去る平成１４年５月３１日、「多臓器不全」のため逝去されました。享年７８歳。ご葬儀は、６月３日（月）午後一時から福岡市の積善社斎場にてしめやかに執り行われました。

先生は、昭和２２年に九州帝国大学法文学部を卒業し、２４年には同大学院（心理学専攻）を修了されました。最初の研究は視知覚に関するもので、これは内外の学会で高く評価されました。その後、公立の北九州大学外国語学部助教授を経て、九州大学教育学部教授、大阪大学人間科学部教授（学部長）、奈良大学社会学部教授（学部長）、久留米大学大学院教授、筑紫女学園大学学長などを歴任されました。平成８年の秋、ヨーロッパでの国際学会から帰国の後、体調不良を来たしたので、平成９年３月、筑紫女学園大学学長を任期満了により退任し、一切の公務からも退かれました。

その間、わが国における社会心理学、とりわけ「グループ・ダイナミックス」（集団力学）の文字通り「先駆者」「開拓者」として活動され、わが国社会心理学と組織心理学の発展に多大の貢献をされました。

先生は、昭和３８年に九州大学教育学部に集団力学講座を創設して初代教授を勤められ、のち大阪大学人間科学部に移られましたが、その間、三隅門下からは若い優れた研究者を輩出しました。一方、昭和４９年から平成６年まで、日本グループ・ダイナミックス学会会長として、学会の発展と国際化に尽くされました。

先生は、つとに学校や企業、地方自治体などの組織（体）が抱える人間の諸問題にコミットされ、その解決のためにアクション・リサーチ（実践即研究のアプローチ）を通じて、独自の「Ｐ－Ｍリーダーシップ理論」を樹立されました。一方、企業組織の生産性や組織の健康度の向上、災害事故の防止のためのリーダーシップ訓練と組織変革などを推進するため、広く地元企業の協賛を得て「集団力学研究所」を設立し、昭和５３年に財団法人化が認められました。バス運転士の事故防止、巨大造船所や原子力発電所の安全管理、病院の医療ミスの予防、学校組織や行政組織の改革など、多大の業績を挙げられました。

先生にとって、そうした実地調査は又、後進育成の場でもありました。私も１９６０年代半ばに学校や炭鉱、化学工場などでの現場調査に何度か参加させて頂いた院生の一人ですが、そこでのミーティングは、自由で斬新なアイディアの噴出する場であったように思います。第一、「Ｐ－Ｍ理論」自体が、そうした討議のダイナミックスの中から「自生したもの」と言えましょう。はじめは「ＰからＭへ」の単一の連続体としてリーダーシップ行動を測定すべく、質問紙が構成されていました。しかし、それでは面接調査が必ずしもうまく行かない場合が出てきました。その窮状打開のため、誰言うとなく「Ｐ」と「Ｍ」の二次元に分けてリーダーシップ行動を記述しては・・・、ということになりました。実地調査の現場での思い切ったパラダイムの転換と言うべきでしょう。一見何でもないようですが、これが「Ｐ－Ｍ理論」孵化の瞬間であったと思っております。

かような多方面にわたる三隅先生の学問的・社会的な貢献は、国内はもとより国際的にも高く評価され、平成６年には「クルト・レヴィン賞」と「国際応用心理学会賞」を、また国内的には平成元年に「紫綬褒章」、平成７年には「第１５回西日本文化賞」などが授与されました。また、同年に勲二等旭日重光章にも叙せられました。

今は亡き三隅二不二先生のご功績とご遺徳を偲び、斯学発展に微力を傾注することをお誓いして、哀悼の辞といたします。

★★　三隅賞基金へのご寄付　★★

事務局　　渥美　公秀

堀毛会長の記事にもありますように、故三隅二不二先生のご遺族様より、三隅賞基金へのご寄付を頂戴しました。重ねて厚く御礼申し上げます。

現在、三隅賞基金（特別会計）の残高は、ご寄付いただいた1,000,000円を加えた結果、1,868,699円となっております。国際的な研究の奨励のために、これからも大切に使わせて頂きます。

本当にありがとうございました。

★★　ご連絡とお詫び　★★　　会　長　　堀毛　一也

８月３０日付けで５０回記念大会の参加申し込みを締め切らせていただきました。３月開催ということで若干の危惧も覚えておりましたところ、多数の方から参加・発表のお申し込みをいただきました。理事会を代表して厚く御礼申し上げます。記念大会にふさわしい内容にすべく、いろいろとアイデアを検討いたしております。詳細につきましては渥美準備委員長のからのご報告をご参照ください。また、このような試みを行ってみてはどうかといったご提案等ございましたら、是非大会事務局宛ご一報賜れば幸いに存じます。多くの皆様のご来駕をお待ち申し上げております。

共催講座に関しましても、松井常任理事、坂元理事、矢守理事のお３方で研究委員会をご構成いただき、各方面の方々の多大なるご協力をいただきながら本年度の計画が詰められてまいりました。特に坂元先生には、講師の手配等大変お世話になっております。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。詳細につきましては松井先生からのご報告がございますのでご一読いただければ幸いです。

ＡＪＳＰに関するBlackwell社との交渉も、山口先生、Leung先生のご尽力により、おかげさまで順調に進めさせていただいております。詳細につきましては山口先生からのご報告をご参照ください。ＧＤとして大変ありがたい交渉結果になっていると思います。

ところで、先にご報告申し上げたＡＡＳＰとの合意事項の中に、重要な報告漏れのあることが判明いたしました。これまで本学会では、実社心研に掲載された論文をそのまま英訳し、ＡＪＳＰに掲載することを認めてまいりましたが、昨年の論議の中で、ＡＪＳＰの審査基準はかなり厳しくrejectされる論文も多いこと、また、ＳＳＣＩに登録されるなどＡＪＳＰの国際的な評価が高まっていることが指摘され、そうした中で二重投稿と見なされることは避けるべきだという論議になりました。そこで、これまでのＧＤ学会とのつながりを勘案した結果として、優秀論文賞受賞論文をＧＤのaward論文と銘記して掲載するという方針が打ち出され、一方で、実社心研掲載論文をそのまま英訳・掲載という形は今後認めないということで合意を持ちました。この点に関し、皆様への説明を怠っており、今年になって一部の先生方に多大なご迷惑をお掛けいたすことになってしまいました。ご心労をおかけした先生方には、紙面を借りて深くお詫び申し上げます。対応といたしまして、本年度に関しては従来通り英訳・掲載を認めること、３月の理事会・総会で承認がいただければ、来年度から合意に沿った形で進めさせていただくということでＡＡＳＰ側からもご了解をいただきました。ご報告が遅れましたこと、あらためてお詫び申し上げます。また、本件につきましても忌憚のないご意見を頂戴できればと存じます。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、あらためてご説明申し上げますが、ＡＪＳＰへの掲載ルートとしては日本語で論文をご投稿いただくことも可能です。この場合、現行では、まず日本語で審査を行い、掲載可が出た後に必要に応じてＡＡＳＰから翻訳に協力してくださる方を紹介し（有料）、英文を整えていただいたうえでＡＪＳＰの審査を行うという形になっております。ただ、この手続きですと、二回審査を受けねばならないことなど、問題点も多いように思いますので、現在常任理事会で対応を検討させていただいております。また、実社心研に掲載された論文でも、一部新たなデータを付け加えるなどすれば、別論文として投稿可能であることはいうまでもありません。こうした点も含め、現在大渕常任理事のご協力をいただきながら審査規程の整備を行っております。３月の理事会・総会でお諮りできると思います。

最後に、私どもの任期も、残すところあと半年となりました。いろいろと難問が山積みで、就任当初はどうなることかと思いましたが、先にもありますように、皆様の多大なるご支援をいただきながら、なんとか無事務めてまいりました。ご協力の段、あらためて厚く御礼申し上げます。すでにお手元に届いていることかと存じますが、次期役員選挙の投票締め切りは１０月１０日（必着）となっております。是非お忘れなくご投票くださいますようあらためてお願い申し上げます。投票の際には、内封筒に封入すること、内封筒には氏名を記入しないことなど、投票上の注意事項も忘れずにご参照ください。何卒よろしくお願い申し上げます。

私個人と致しましては、２年半の大役でさすがに心身共に限界を感じております。ろくに貢献もできないままで大変恐縮ですが、願わくば事情をお汲み取りの上、本学会の代表としてふさわしく、国際的な活躍のできる方を新たな会長としてご選任いただくよう、心より懇願申し上げる次第です。公的な紙面で申し上げるべき事柄でないことは重々承知い

たしておりますが、何卒ご寛容の程お願い申し上げます。
　いろいろとお願いごとやお詫びの文言ばかりで誠に恐縮に存じますが、今後とも学会の発展のためによろしくご協力賜わりますようお願い申し上げます。

★★　第５０回（@京都）大会のご案内　★★　　準備委員長　　渥美　公秀

　第50回大会は、堀毛大会委員長のもと、来年３月22日、23日に京都で開催されます。春に大会を開くのは初めてですので、果たして多くの会員の皆様にご参加頂けるかと心配しておりましたが、昨年の熊本大会の２倍を上回る約170件の発表申し込みがありました。参加希望者数は200を超え、懇親会にも予約だけで約100名がご参加下さいます。準備委員会としましては、改めて部屋の確保などに嬉しい悲鳴をあげております。
　企画の方も盛りだくさんです。詳細は、学会ホームページを中心に、Flash、２号通信などでお知らせしていきます。ここでは少しだけ予告を：

○シンポジウム：
　大会シンポジウムとしましては、グループ・ダイナミックスの”これからの50年”を考える記念シンポジウムを企画中です。一方、日本学術会議との共催で公開シンポジウムを行います。こちらは、「精神的健康と文化（仮）」をテーマに、現代社会の心理学的諸問題に鋭く切り込む予定です。さらに、記念大会に貢献したいとの意向を示されているアジア社会心理学会からは、様々なゲストをお招きし、上記シンポジウムのみならず、独自のシンポジウムが企画できるかもしれません。

○ワークショップ
　次の４つのワークショップを企画中です。
（１）英語論文ワークショップ（初級、中級の２クラス）
　主催：大会準備委員会
　共催：研究委員会
　大会前日午前と午後後半に開催する予定
　有料
　　会員の皆さんの国際化のニーズに答えるため、アジア社会心理学会の協力によって、第50回大会前日に英語論文の書き方についてのワークショップを企画しました。講師はAsian Journal of Social Psychology編集長のKwok LeungおよびJames Liu, Uichol Kim, 嘉志摩佳久の諸氏などが予定されています。クラスはこれから初めての英語論文の執筆を考えている方を対象にした初級コースと、英語論文を執筆したことがあるが、さらに英語での表現力の向上を目指している方のための中級コースが設定されます。それぞれ、参加費は学生会員1000円、一般会員2000円となります。どちらのコースも30名を定員とし、先着順で受け付けますので、電子メールで
　　jgda50@mbk.nifty.com
　まで申し込んでください。なお、参加費は当日会場にてお支払いください。
（２）統計ワークショップ
　主催：大会準備委員会
　大会前日の午後前半に開催する予定
　無料
　SEMFAQ－共分散構造分析に関する10の質問
　企画者（質問者）　三浦麻子（大阪大学大学院人間科学研究科）
　話題提供者（回答者）　狩野裕（大阪大学大学院人間科学研究科）
　　「第二世代の多変量解析」と呼ばれる共分散構造分析（構造方程式モデリング；SEM）が世に出てから既に30年が経過し、昨今では社会心理学分野においてもその適用例が急増しています。欧米の主要雑誌では、特に調査研究を中心に、SEMをおこなっていない論文は既にマイノリティとなっている観もあります。　果たしてSEMは、因子分析・パス解析・分散分析といった旧来の分析手法にとってかわる包括的なものとなりうるのでしょうか。また、応用研究者である私たちは、どのような視座から、この大いなる可能性を秘めた発展途上の分析手法にアプローチすればよいのでしょうか。本ワークショップでは，「1.ＳＥＭはいつどのような状況で使うべきか？」「2.

SEMどこまで因果関係がわかるのか？」という2つのテーマを中心に、SEMに関する「よくある質問」とその最適解について、一問一答形式で紹介します．

（3）院生セッション
主催：研究委員会
大会期間中に開催
無料
　詳細な内容は、委員会で現在討議しておりますが、院生の発表者に対して、他の会員が指定討論者になるセッションをイメージしています。指定討論者は、院生のご希望に添うようにしたいという考えています。「他の大学や組織の先生にコメントをもらいたい院生集まれ！」
　詳細は大会２号通信でご報告しますので、発表を希望する院生の方は、今後の情報にご注意下さい。

（4）実践家との交流ワークショップ
主催：研究委員会
大会期間中に開催
無料
　今年の交流ワークショップも、現場で活動する当事者と、グループ・ダイナミックスの研究者との出会いの意味と意義について、様々な実例に基づいて議論します。すでにフィールド研究に携わっておられる会員はもとより、これからフィールドに出ようとしている若い会員にもたくさん参加して頂き、議論に加わってもらいたいと願っております。熊本大会に引き続き、第２弾となる今年のワークショップでは、現在、環境問題、まちづくり、国際協力、教育といった様々な現場にスピーカーを求めて企画を進めています。

○第50回大会記念行事
　半世紀にわたって大会を開いてきた日本グループ・ダイナミックス学会の歴史を、様々な懐かしい物品の展示を通して振り返ります。

＜－－－－ナカニシヤ広告挿入－－－－＞

★★　２００１年度第６回常任理事会・第６回常任編集委員会議事録　★★

日本グループ・ダイナミックス学会
2001年度 第６回　常任理事会・常任編集委員会議事録
日時：2002年3月31日　13:00-17:00
場所：東京大学山口研究室
出席者：堀毛・渥美・大渕・廣岡・松井・村田・山口

常任理事会

【報告事項】

総務
古畑理事から名誉会員への推戴にともない理事辞退の申し出があったため、東京地区次点の安藤清志氏に理事就任を依頼したところご受諾いただいた（2002年１月15日付）。

広報
ぐるだいニュースの発行について、廣岡常任理事より、第22号を発行したとの報告があった。第23号は大会情報を盛り込んで発行する計画とのことであったので、１号通信と合体することも検討することとした。

渉外
Blackwell/AASPとの交渉経過について山口常任理事より、来年度は800部購入予定ということでBlackwell社と交渉していることが報告された。これは、来年度まで有効の契約において800部購入することになっていることに対応した交渉であり、再来年度以降は、最低購入部数を実情に併せて減らしていくことを交渉していく。そのため、AJSPの編集面以外の窓口（納入先住所、残部の管理主体、支払金の為替損益など）の経緯と現状を事務局で再度確認しておくこととした。

会計・事務
渥美常任理事より、事務局における今年度の小口会計が滞りなく執行できたことが報告された。また、今年度事務局を手伝ってくれていた複数の大学院生らに代わり、来年度は、アルバイトとして鈴木和代さんを雇用して、事務の一元化と迅速化を図るとの報告があった。

その他
山口常任理事より、AASPとSESPとが協力しあって英語添削体制を作ったとの報告があった。具体的には、AASPに登録している者には、英語論文の添削について人の紹介、料金の提示、そして、添削を行うこととなっている。当学会会員は、本人の申告があれば、無料で「AASPに登録している者」となることができるので、この英語添削体制は、当学会員のメリットの１つである。

【審議事項】

１．第50回大会の準備について
第49回大会時の総会において、堀毛会長を大会委員長とし、そのもとに準備委員会を創設することが了承されたが、準備委員会を常任理事と準備委員長（渥美常任理事）の身近な会員をもって構成することが検討され、了承された。また、大会会場の予約状況、大会事務作業の委託先の検討状況などが報告され、さらにAASPからの協力申し出があることも紹介されたので、今後、準備委員長を中心とする事務体制を固めて迅速に作業を進めていくこととした。日程の面では、１号通信を４月中に発行すること、発表原稿締め切りを１２月２０日頃とすることなどが了承され、内容の面では、発表者の立場に立って、同時並行のプログラムを減らしポスター発表を増やすこと、新入会員の発

表資格について明示することなどが話題となり、実現する方向で計画していくこととした。

２．選挙日程について
　大渕常任理事が選挙管理を担当することが了承された。事務局から、日程と見積もりを送付し、投票は11月に行うことで計画していくこととした。なお、選挙人台帳の整備は、現在進行中であることが、事務局から報告された。

将来計画
１．事務作業等委託の一本化（事務委託、サーバー、オンラインＪ）について
　本格的に進めていくために、期限を区切って検討していくこととした。具体的には、６月（次回常任理事会）を目処に、堀毛会長、廣岡常任理事、渥美常任理事が、中西印刷など事務委託先として可能性のある会社等を訪問し､計画原案を作成することとした。
２．研究委員会設置に関して
　松井常任理事より、研究委員会（常任理事１名を含む理事３名）設置の提案があり、任期を来年度大会までとして､理事会に呼びかけて設置することが了承された｡その際､大会でのワークショップの企画など具体的な企画、常設することになれば必要となる細則の整備なども行っていくこととした。
３．マーケティングリサーチ協会との共催講座日程について
　今年度の成果をふまえて、来年度の日程（２案）と内容（２案）が提示された。二つの案を並記し、上記の研究委員会にて検討していただくこととした。
４．学会誌名、および、会員制度の見直しについて
　渥美常任理事より、学会誌名を変更することについて提案があった。ぐるだいニュースに意見を掲載して、広く会員の声を聞きながら進めるべき事柄であり、また歴史的な経緯と将来に及ぼす影響について十分な検討が必要であるから、継続審議とすることとした。堀毛会長から、会員制度の見直しについて、継続審議としたいとの提案があり了承した。

＜－－－－北大路広告挿入－－－－＞

その他
１．再入会について
再入会の申し出があった場合、正式な退会手続きをとられていることが判明すれば、入会を承認することを申し合わせた。
２．日本心理学諸学会連合の動向について
厚生労働省が、研究班による臨床心理技術者（いわゆる医療心理士）の資格のあり方に関する報告をもとに、臨床心理場面に資格を導入しようとしていることについて、同連合の対応を確認した。当学会としては、心理臨床学会等の呼びかけには慎重に対応することとし､これまでの心理学関係領域が作ってきた資格との整合性を考えるとともに、「そもそも心理という言葉を、心理学関係者との議論をもたずに使用することは問題ではないか」との問題提起を行っていくこととした。
３．次回日程について
６月２９日を第１候補として調整することとした。

常任編集委員会

【報告事項】

渥美常任理事より、オンラインジャーナルの準備として、J-STAGEに登録を完了したことが報告された。

【審議事項】

投稿・審査状況について
４１巻１号の掲載論文、取り下げ論文の審査状況が報告され、４１巻２号および４２巻１号の掲載決定論文について審査経緯が報告され、掲載候補論文については、審査経緯を確認し掲載を決定した。審査中の論文については、審査状況が報告された。
なお、複数の会員から審査の迅速化を求める強い声が届いていることが紹介され、審査の流れと内容について議論した。その結果、堀毛編集委員長および大渕常任理事が中心となって、審査体制の再確認、審査者への期限厳守のお願い、および、投稿者への改稿期限厳守のお願いなどを、改めて文章化し、ホームページに公開するとともに、審査依頼時に同封することとした。

★★　２００２年度第１回常任理事会・第１回常任編集委員会議事録　★★

日本グループ・ダイナミックス学会
2002年度 第１回　常任理事会・常任編集委員会議事録
日時：2002年６月29日　14:00-18:30
場所：東京大学山口研究室
出席者：堀毛・渥美・大渕・廣岡・松井・村田・山口

常任理事会

【報告事項】

総務
１．日本心理学諸学会連合報告
堀毛会長より、日本心理学諸学会連合の会議資料に基づいて、「日心連基礎資格と認定心理士」との関係に関する議論の経緯について、説明があった。基礎資格のあり方については、日心連から以下の件について照会が届いており、常任理事がMLにて議論を行い、会長が取りまとめて回答することとした。
照会事項１：筆記試験の実施に関する問題を含め、貴学会では、日心連基礎資格をど

のようなものにしたいとお考えでしょうか。
　照会事項２：仮に、日心連で筆記試験を実施することになった場合、貴学会からは、初期費用や委員について、どのような分担に応じることが可能でしょうか。
　なお、日心連の会議において、スクールカウンセラーを臨床心理士以外にも開かれたものにするように求める要望書については、臨床心理学系の諸学会が反対したため、採択されなかったことも報告された。
２．大学評価機構への推薦
　堀毛会長より、大学評価機構に対し、研究部門として杉万俊夫氏と安藤清志氏、教育部門として、山口勧氏と安藤延男氏を推薦したことが報告された。

広報
１．ニュース等の発行
　廣岡常任理事より、ニュース２３号を９月をめどに発刊する予定であることが報告された。大会について、堀毛会長がメッセージを執筆すること、三隅先生に関する追悼記事については、渥美常任理事から集団力学研究所等に執筆の打診を行うこととした。
２．ホームページの運用
　大会１号通信を掲載したこと、および、Flashの一部（理事会発など）を保存して閲覧できるようにしていることが報告された。

将来計画
共催講座の進展状況の報告
　松井常任理事より、日本マーケティングリサーチ協会(JMRA)との共催講座について、今年度は、１０月１０日に「インターネットの心理学」（企画者：坂元章）として開催される予定であることが報告された。

渉外
Blackwell/AASPとの交渉経過
　山口常任理事より、Blackwell社からの通知について、書面をもとに報告があった。同社によれば、来年度、当学会は、AJSPを単価$34で680部（以上）購入するものとし、総支払額はUS$23,100で固定することを了承したとのことである。常任理事会としては、さらに「部数増大による単価引き下げの可能性」を交渉することとしながらも、本通知を学会にとって非常に有利なものと受け止め、５年間の契約としていくことを了承した。なお、シンガポールでの国際学会??上、Blackwellの担当者と面談し、さらに細部を決定していくこととした。
　なお、学会センターに対し、現在のAJSP配布数、および、実験社会心理学研究の配布数を問い合わせておくこととした。前者は、Blackwell社との交渉材料、後者は、印刷費の節減に向けた材料。

会計・事務
１．今年度執行状況の報告
　事務局の手違いにより、昨年度２月末までの数字しか入手していなかったので、改めて３月末までの資料を入手し、MLにて報告することとした。その際、編集経費など未申請であった可能性のあるものは、支払いを行うこととした。
　会員については、入退会ともに特に大きな変化はないが、選挙台帳処理の場面で、長期にわたって会費を支払っていない会員がいることが判明したので、学会センターに対し、「未納年数別リスト」を作成依頼し、取り立てに要する費用、管理に要する費用などを算出した上で、この問題への対処方法について、さらに検討していくこととした。
２．科学研究費結果
　成果公開促進として、AJSPには90万円の助成が確定したこと、および、和文誌は今年も採択されなかったことが報告された。さらに、大会時に行うシンポジウムの企画へは助成が行われないことが報告された。

５０回大会
　大会準備の日程が提示され、現在、１号通信が発信されて、発表申し込みを待っている段階であることが確認された。会場運営については、大阪大学生協に委託して進めていることが資料をもとに報告された。

その他

三隅賞への寄付

故三隅二不二名誉会員のご遺族より、香典へのお返しとして、三隅賞への寄付の申し出があり、これをありがたくお受けすることとした。また、堀毛会長によるお礼の文章が参列者への文書に掲載されることが報告された。

【審議事項】

１．選挙日程について

学会センターと事務局の間で進めてきた日程（案）を検討し、９月３０日投票締切とした。選挙管理会については、大渕常任理事の周辺で堀毛会長が指名するものとした。有権者は、規程により、「６月３０日時点での会員を含む」「前年度の会費未納者を除く」「名誉会員を含む」ことを確認した。学会センターに上記を連絡し、版下出力を依頼することとした。さらに、前回の選挙資料について、事務局で再度確認できるようにしておくこととした。

２．第50回大会の準備について

企画を検討した。プログラムとしては、学術振興会のシンポジウム、アジア社会心理学会による記念行事（シンポジウム）、ワークショップ、新企画（デビュー発表：初めての発表について、特定の先生からのコメントを求めることができる若手会員奨励企画）、および、三隅先生メモリアルレクチャー（外国人も含む）などの案が出され、さらに整理して、次回の常任理事会で検討することとした。

一方、論文集についても、Webの利用、アブストラクトのテキストファイルによる送付とCD化、などについて意見交換を行い、廣岡常任理事と渥美常任理事との間で案を作成し、２号通信に掲載していくことを合意した。その際、提出された原稿をＷｅｂやＣＤに加工することの承諾を得ておく必要があるとの指摘があり、そのようにすることとした。さらに、大会会場では、論文集ＣＤ、オンラインジャーナル、オンライン編集事務システムなどのサンプルを体験できるコーナーを設けることを検討することを了承した。

なお、５０回記念行事としては、学会の歴史をたどる展示を行うものとし、その中に（メモリアルレクチャーに加えて）、三隅先生への追悼企画を盛り込むことにした。

将来計画

１．研究委員会の構成

松井常任理事より、研究委員会の目的、活動、組織、運営に関する内規（案）の提示があり、これを了承するとともに、この内規に基づいた研究委員会を発足させることを理事会に報告してもらうこととした。なお、委員としては、坂元章理事、矢守克也理事、松井常任理事ということで、ご本人の了承をとって進めていくものとした。

２．次期大会におけるワークショップ開催

松井常任理事から、英文論文の書き方、実践家とのワークショップなど、前大会での企画を引き継ぐとともに、会員からの要望を加味して、堀毛会長に開催を依頼するとの提案を了承した。

３．学会誌名について

４．会員制度

上記２項目は、会費の値下げ、学会誌のオンライン化、日心連の資格問題など、学会内外の情勢についてさらに流動的な面が残るので、継続審議とした。

５．会費問題

松井常任理事より、会費の値下げについて、昨年度の会計を睨みながら、再々度検討するよう指摘があり、次回の常任理事会に会長より提案することとした。

その他

１．入退会最新補足

推薦者が身近にいないとのことであった１名について、山口常任理事が推薦者となることで入会を承認した。

２．三隅賞

当学会からは、大渕常任理事、山岸俊男氏、堀毛会長が参加するAASPとの会合（メールによる持ち回り）において、夏休み中をめどに受賞者を決定していく方針を確認し

た。
３．学会賞
手順を含めて、次回の常任理事会において決定することとした。
４．次回日程について
９月１４日・１５日に仙台で開催することとした。

常任編集委員会

【報告事項】
１．投稿・審査状況について
審査状況が報告された。
２．オンラインジャーナルの現状
中西印刷では、４２巻１号からの実施を検討しているが、総会での承認を得る必要があるので、これは待ってもらい、さらに検討することとした。ただし、オンラインジャーナルについても、その編集システムなどを含めて実物を見て理解することが必要であるので、大会におけるデモの機会を探ることとした。

【審議事項】
１．投稿・審査状況について
改稿の期間がかなり長期にわたる論文が散見される。1998年度の投稿論文などについては、３ヶ月などの猶予期限を設けた上で、改稿に応じない場合には、却下するといった処置について、検討していくこととした。
２．審査体制の見直しについて
編集・審査規定について、堀毛会長より原案が提示され、詳細にわたって検討した。その結果を承けて、次回の常任理事会に改訂案が提出されることとなった。また、編集状況は、３ヶ月に１度のペースで、ホームページに報告していくこととした。
３．三隅先生追悼記事について
杉万俊夫氏による追悼文を掲載することとした。さらに外国人からの記事については、杉万俊夫氏に依頼と取りまとめをお願いすることにした。日程は、８月中に原稿集約、９月中旬発刊となる予定。

★★　２００２年度第２回常任理事会・第２回常任編集委員会議事録　★★

日本グループ・ダイナミックス学会
2002年度 第２回　常任理事会・常任編集委員会議事録
日時：2002年9月14日　19:00-22:00　　9月15日 8:30-11:30
場所：東北大学文学研究科心理学研究室
出席者：堀毛・渥美・大渕・廣岡・松井・村田・山口

常任理事会

【報告事項】

総務
堀毛会長より、日本心理学諸学会連合から回答を求められていた基礎資格導入にともなうペーパーテストの実施に関するアンケートに対し、常任理事会の意見を参考に、ペーパーテストの導入には反対であること、また、心理学全体の統一資格を設ける必要性があるとの回答を行った旨の説明があった。また、あわせて学会連合の次回会合（12月21日）では、医療保健福祉士をめぐる論議が行われる予定であるとの報告がなされた。
堀毛会長より、三隅賞選考について、９月末日までにノミネートし、10月末日をめどに決定したい旨、報告があった。

広報

廣岡常任理事より、NL23号を９月末に発行し、24号は大会直前号として２月頃に発行する予定であることが報告された。

NLへの広告料の請求は事務局が行うことを確認した。なお、今年度の広告料は、号数減少に伴った微調整が必要と考え、金額については廣岡常任理事に一任することとした。

将来計画

松井常任理事より、今年度の日本マーケティングリサーチ協会との共催講座に関して広告パンフレットをもとに報告があった。開会にあたり、堀毛会長が挨拶を述べることを確認した。また、来年度以降のテーマについて広く意見を求めたいとの意向が報告された。

渉外

山口常任理事より、AJSP編集の現状が報告された。投稿論文数は、半年で50編。rejection率は70%。

会計・事務

渥美常任理事より、本年度4月以降の新入会者数、現在の会員数、および、会費納入状況が別紙の通り報告された。退会者数については、事務局が、近日中に整理して、MLに情報を提供することとした。

堀毛会長、渥美常任理事より、８月25日に故三隅二不二名誉会員宅に、三隅賞基金への寄付のお礼に訪問し、感謝状を手渡したことが報告された。訪問の経費は、予備費で対応することとし、総会にて経緯を報告することとした。

選挙

大渕常任理事より、選挙の準備状況について資料をもとに報告があった。作業を一部学会センターに委託した経緯が報告され、近日中に発送される案内文や投票用紙の文面が報告された。

５０回大会

渥美常任理事より、大会参加申込者の一覧、大会注の部屋割りについて、資料をもとに報告があった。

その他

堀毛会長より、優秀論文賞の選考は、10月に手続きを開始し、選挙で委員長を選任したうえで、１月頃に投票を行い、３月の大会の折の選考委員会で受賞論文を決定する予定であることが報告された。

【審議事項】

選挙

選挙後の日程について、大渕常任理事から提案のあった日程案を検討し、了承した。

今回の選挙を実施する中で明らかになった問題点を今後の検討事項として列挙した。

（１）新入会員の投票資格について、入会時期に関する明確な規定がない。選挙直前の常任理事会までに入会を承認された会員には投票資格を与えることを申し合わせた。今回は、９月１１日にセンターに承認が届いている新入会員まで。

（２）役員の任期に関する規定がわかりにくい。

（３）細則の記述に明らかな誤りがある。

次期は、これら諸点を含めて、「選挙に関する規定を見直す」ことを任務とする小委員会の設置を、理事会に提案することを申し合わせた。

将来計画

松井常任理事より、大会ワークショップ「院生セッション」は、研究委員会が企画し、参加者の募集を行うことが提案され、了承された。

事務作業等委託について、堀毛会長による経緯の説明を承けて、K社、N社の見積書の内容を検討した。両社とも現行より大幅なコストダウンが可能との内容であったため、移行を積極的に検討することで合意を得た。さらに、これまでの経緯、内容、日本社会心理学会との関係などを考慮すると、N社を選択する方向で考えるとの基本的合意を得たが、現在の委託先の学会事務センターにも見積書を依頼する必要があるとの指摘もあり、最終判断は次回の常任理事会で行うこととした。なお、センターからの移行費用についても概算を出しておく必要があることが確認された。

渥美常任理事より、現在の学会誌名では、貴重な論文の投稿先として認識されにくい状況が生じているとの指摘があり、いくつかの例が示された。できるだけ速やかに変更していくとの意見もあり、いくつかの案も出されたが、継続審議となった。

堀毛会長より、多様な会員制度について議論していく必要があることが再度提示された。地方区理事、海外（在住）理事などの見直し、新設なども含めて継続審議とした。

渉外

AJSPの出版契約について、山口常任理事より、契約書のドラフトがもうすぐBlackwellから送られてくる予定との報告を受け、契約期間について審議したところ、５年契約を求めて行くことに合意した。

５０回大会

大会シンポジウム、および、学振シンポジウムについて審議した。大会シンポジウムは、「GD研究これからの50年（仮題）」というタイトルのもとで、大会委員長を司会とし、グループ・ダイナミックスの将来について様々な角度から発言を求めるような企画とすることで合意した。また、日本学術会議との共同シンポジウムは、「精神的健康と文化（仮題）」をテーマに、やはり大会委員長の司会で実施し、公開シンポとすることで合意した。今後、大会委員長と準備委員長の間で企画案の詳細を作成し、準備委員会で検討することとした。

アジア社会心理学会からの参加は、大会シンポジウムへのスピーカーとしての参加、英語論文ワークショップでの講師、English　Sessionでの発表など、多様な形で実現するものとするが、さらに独自のワークショップについて山口常任理事から提案をお願いし、MLで検討していくこととした。

ワークショップについては、以下の事項を審議して決定した：

（１）英語論文ワークショップ
　主催：大会準備委員会
　共催：研究委員会
　有料
　NLで広告（山口常任理事）し、事務局宛のメールで受け付ける
　大会前日午前と午後後半に開催する予定

（２）統計ワークショップ
　主催：大会準備委員会

（３）院生セッション
　主催：研究委員会
　NLで予告（松井常任理事）
　準備：松井研究委員長、矢守研究委員

（４）実践家との交流ワークショップ
　主催：研究委員会
　NLで予告（渥美常任理事）
　準備：研究委員会から委託され渥美常任理事

大会準備に関わる日程を審議した。参加申し込みは、慣例として、締切１ヶ月後まで認める。新入会員は、この常任理事会で承認された会員までを対象とする（1号通信を送る）。2号通信は、10月半ばに発送するものとした。

大会準備については、準備委員会メンバーの役割を取り決めること、学生アルバイトなども含めて人員の流れ案を作成すること、部屋割りを詳細に確定することなどを検討し、事務局から速やかに提案していくことになった。

会計・事務

学部生の入会、および、大会での発表について審議した結果、入会も発表も認めない

ことを申し合わせた。同時に、大会主催校が「学部生セッション」など学部生を対象にした特別な企画を立てた場合などについては、常任理事会としてそれを妨げないことも合意した。

長期滞納者については、そのリストを事務局が作成し、次回の常任理事会で、「実態を把握した上で、２から３年滞納した場合、自動的に退会する」といった規定の作成について検討することとした。

名誉会員の退会については、ご本人・関係者の申し出に沿うように進め（例えば、何も送らないで欲しいとの申し出にはセンターに連絡をとって手配する）、逝去された場合は、名簿から削除することとした。

次回常任理事会は、１月12日（日）京都キャンパスプラザでの開催を予定。

その他

学会賞の創設については、発表賞、査読賞など多様に検討していくことを申し合わせた。

広告費については、現状をFlashにリストアップし、理事に広告費の新規開拓を依頼することとした。

常任編集委員会

【報告事項】

堀毛会長から、実験社会心理学研究の投稿・審査状況について一覧表をもとに報告があった。

【審議事項】

持ち回り常任編集委員会で承認された掲載決定論文５編について、４２巻１号に掲載することで承認を得た。また新たに主査から掲載可とされた論文２編について審議し、１編は４２巻１号への掲載を承認し、もう１編については、主査の報告を回覧したうえ、掲載決定とすることで合意した。

「実験社会心理学研究」の編集方針、編集体制について、堀毛会長より原案が示され、表現を含めて文面を検討した。大渕常任理事による文面の最終チェックを経て、最終案を次回の常任理事会で審議・決定することとした。

「実験社会心理学研究」の編集状況を、学会のホームページに掲載することにした。更新は概ね３ヶ月ごと。そのことをFlashで速報することとした。

★★　*研究委員会報告*　★★　　研究委員会　　松井　豊

今年度より、理事会の承認を得て、理事会内に「研究委員会」が発足しました。委員は、松井豊常任理事、坂元章理事、矢守克也理事です。委員会の規約は次回大会にてご審議頂きますが、現在は、日本マーケティングリサーチ協会との共催講座の企画運営（以下「共催講座」と略記）と、学会大会におけるワークショップの企画と運営（以下「大会ワークショップ」と略記）の２種の活動を行っています。活動は主にメイル会議で進行しております。

共催講座に関しては、坂元委員の企画準備により、「インターネットの心理学－ＩＴ社会の企業戦略－」の講座が、10月10日に東京水道橋にて開催される運びになりました。詳細は、当会報に別記しております。

大会ワークショップは、若手研究者の研究活動支援と、グループダイナミックスに関わる実践家との交流促進を目的に、学会大会にてワークショップを開く準備を進めております。各ワークショップの準備に関しては、大会準備委員会と調整しております。

ワークショップの内容や準備に関してご意見やご希望があれば、当委員会委員までお申し越し下さい。

★★　共催講座の開催について　★★　　研究委員会　　松井　豊

日本マーケティングリサーチ協会との第２回共催講座のお知らせ

当学会と日本マーケティングリサーチ協会との第２回共催講座が、下記のように開催されます。参加を希望される方は、日本マーケティングリサーチ協会事務局までお申し込み下さい（以下敬称略）。

テーマ：インターネットの心理学　－ＩＴ社会の企業戦略－
講師と内容：
　三石玲子（Ｍ＆Ｍ研究所代表）「ネットマーケティングの現状と課題」
　坂元 章（お茶の水女子大学）「心理学はインターネットをどう捉えているか」
　三浦麻子（大阪大学）　「ネットミーティングと集団創発性」
　内藤まゆみ（日本学術振興会）「ＩＴ時代の癒し－ネットカウンセリングとは何か」
日時：2002年10月10日（木）10:00-17:00
場所：東京グリーンホテル・水道橋（水道橋駅徒歩５分）
定員：70名
参加費：当学会員は7,350円（消費税込み）、一般は29,400円（消費税込み）
参加申込先：日本マーケティングリサーチ協会
　〒112-0004　東京都文京区後楽1-1-5第一馬上ビル
　電話 03-3813-3577　　FAX 03-3813-3596　　e-mail info@jmra-net.or.jp

★★　新役員選挙のお知らせ　★★　　選挙管理会委員長　小林　裕

本学会の現役員（会長、常任理事、理事、監査）の任期は2003年3月31日です。そこで、現在、2003年度・2004年度の新役員選挙を実施中です。会員の皆様のお手元に投票用紙が届いているかと思います。投票締切は10月10日（必着）ですので、お忘れなく投票をお願いいたします。なお、有権者であるにもかかわらず、投票用紙が届いていない方は、学会事務センター大阪事務所、日本グループダイナミックス学会担当者までお問い合せ下さい（電話06-6873-2301）。

★★　実験社会心理学研究　第４２巻１号掲載決定論文　★★

＜一般論文＞
【原著論文】
原田　耕太郎　報酬分配における分配者の公正動機の充足度が分配者の被分配者に対する言語メッセージに及ぼす効果
中村　國則　評定に対する評定方法の相違の影響と処理プロセスとの関連
楽木　章子　乳児院の集団的・組織的特徴と乳児の発達
高口　央・坂田　桐子・黒川　正流　集団間状況における公式・非公式リーダーの効果性に関する検討
【資料論文】
山口　一美　自己宣伝におけるスマイル、アイコンタクトとパーソナリティ要因が就労面接評価に及ぼす影響
矢守　克也　災害の「風化」に関する基礎的研究（II）－マスメディアの報道量とマクロ行動変数による測定と表現
戸塚　唯氏・深田　博己・木村　堅一　受け手あるいは家族をターゲットとする脅威アピールの効果

９月１５日時点での、「実験社会心理学研究」の編集状況についてお知らせいたします。

・投稿論文総数	３４編
４２巻１号掲載決定論文	７編
審査進行中論文	２７編
審査者審査中	９編
改稿中	１７編
審査員選出中	１編
・取り下げ論文	２編
・掲載不可論文	２編

２０００年度以降に投稿された論文では、初稿審査平均月数は4.3ヶ月。受稿から受理までは最短で９ヶ月、多くの場合１年から１年半で掲載されています。２００２年度になってからの投稿は１１本で、例年に比べやや少な目です。現在掲載待ち論文はなく、受理されればすぐ掲載という運びになります。皆様のご投稿をお待ち申し上げております。

なお、９月１５日に開催された常任編集委員会において、実験社会心理学研究の編集状況をグルダイホームページおよびJGDA_Flashにて定期的に会員の皆様にお知らせしていくことが確認されました。またこの情報は、今後３ヶ月ごとに更新される予定です。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/edit_info.html

★★　アジア社会心理学会よりのご案内　★★

アジア社会心理学会会長　山口　勧

AJSPに関するBlackwellとの交渉経過について

現在AJSPの出版に関する契約更新についてBlackwellと折衝を続けています。基本的にはこれまでと同じ条件で、しかも同じ値段(1部あたり34米ドル)で5年契約を更新するが、その際グルダイの年間800部という最低購読数を680に下げることで合意しています。Blackwellからの契約書の原案がそろそろこちらに届くことになっておりますので、次回のニューズレターには契約書の内容をご紹介できることと思います。

AASPマニラ大会と会員登録のご案内

アジア社会心理学会は隔年に大会を開催しています。来年は第五回大会をマニラで開催する予定で準備が進んでおります。近年、多くの心理学研究者が国際学会に進出し、本年７月にシンガポールで開催された国際応用心理学会には総出席者約1600名のうち250名が日本人で、国別ではアメリカを押さえてトップになっています。このような皆さんの積極的な研究発表のニーズに答えられるような学会にしたいと考えています。日程は来年の7月29日から8月1日です。すでにホームページも立ち上がっておりますので、ぜひ御覧ください。URLは以下の通りです。

http://www.dlsu.edu.ph/conferences/aasp/

なお、なお、フィリピンには初めて訪問する方が多いと思われますので、マニラ空港に出迎えをするなどの検討を行っています。

AASP会員登録

グルダイの会員の皆さんは無料でAASPの会員となることができます。このたび、AASPではアメリカのSociety of Experimental Social Psychologyとオーストラリアの The Victoria University of Wellingtonとの協力により、会員の英語論文執筆を強力にバックアップするプログラムを開始しました。詳細は以下のホームページをご覧ください。

http://www.sites.psych.unimelb.edu.au/aasp/publishing.html

また、独自のニューズレターの発行も開始しましたので、ぜひこの機会にAASPの会員登録を行ってください。ご希望の方は、以下の要領でお願いいたします。
アジア社会心理学会会員登録ご希望の方は、以下の情報を下記のあて先にお送りください。日本語で結構です。また、件名はAASPmembership としてください。

1.氏名
2.肩書き
3.所属
4.メールアドレス
5.電話番号
6.ファクス番号
7.電子メールアドレス
8.グルダイメンバーであるかどうか
9.昨年のアジア社会心理学会メルボルン大会に出席したかどうか

送り先：Tsakurai@swin.edu.au

★★　事務局からのお知らせ　★★

＜事務作業の一本化について＞

事務局では、ほぼ２年間にわたる事務作業の経験を振り返り、事務作業の流れの見直しを行っております。例えば、現在ですと、会員の入退会管理、学会誌の編集作業、ニュースレターの編集作業、各種の印刷作業、雑誌の発送作業、そして会員への各種対応といった様々な作業が、別々の場所で行われております。それぞれ個別に見れば、かなり効率的に進めて頂いておりますが、これらを一括して進めることができれば効率的です。効率が上がればすぐに経費が下がるというわけではないでしょうが、いずれは、経費の節減、会費の低減へとつながるものと思います。これからは、オンラインジャーナルも本格的に始動していくでしょうし、学会誌の編集もオンラインで行うことを検討中です。このニュースレターもホームページから見ることができます。オンラインでの作業を機軸とした事務作業の一本化を具体的に考え始めております。詳細は、次号にて。

★★　JDGA_Flashメールマガジンから　★★　　広　報　　廣岡　秀一

昨年１月より【日本グループ・ダイナミックス学会・広報（速報）メールマガジン】（JGDA_Flash)を運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員のみなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。現在登録されている会員は約５３０名です。本年度も研究会開催情報、理事会からのお知らせなどの記事を中心に、50通あまりのメールが配信されています。グルダイ会員のみなさまの中には、会員名簿にメールアドレスを掲載されていない方や最近アドレスを取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかと思いますが、登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、グルダイ広報メールマガジン運営担当マスターのアドレス

jgda_flash@epsycho.edu.mie-u.ac.jp

までお願いいたします。また、新刊案内や研究会案内等のニュース記事も大歓迎いたします。同アドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/flash.html

で閲覧可能です。以下に、いくつかの記事を転載させて頂きます。

【日本グループ・ダイナミックス学会・広報 速報）メールマガジン】

【81】 ■助手公募のお知らせ（東京大学・池田謙一）
■東京大学大学院人文社会系研究科社会心理学研究室で、助手を公募しています。来年４月採用です。詳しい公募情報は以下にありますのでお知らせ致します。
■正式版http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tmp/koubo.socpsy.pdf
■研究室詳細版http://www-socpsy.l.u-tokyo.ac.jp/japanese/koubo2002.htm
■研究者人材データベースへの登録もしておりますhttp://jrecin.jst.go.jp(2002.08.08)

【85 】■ ＳＰＣ研究会のお知らせ（関西大学・柏尾眞津子）
■ＳＰＣ（Social Psychology of ClothingLaboratory）研究会（関西大学　高木修主宰）は、被服と身体装飾の社会心理学的研究を通して、装いのこころを科学する。そして、現代人の、装いによる装飾行動、整容行動、変身行動の実態とその背景に潜む行動の法則性を明らかにする。という目的でメンバーは社会心理学、被服構成学の研究者たちが参集。月に1回研究会を開き研究活動を行っています。 ■＜研究会の３本の柱＞ 学際性－心理学、家政学、社会学、マーケティング等からの多角的アプローチ　国際性－外国の研究者との共同研究　実践性－理論研究に留まらず、その成果を社会問題の解決に応用 ■ただ今研究会第４期へむけて新テーマで研究活動を始動。新たに参加者を募っております。心理学のみならず、被服行動に関心のある方ならどなたでも自由です。ご参加いただきたく、ご案内申し上げます。なお、見学のみも歓迎いたします。 ■○内容：第４期の研究活動班ごと新テーマで研究　第１班：被服の着装規範　第２班：高齢者の衣生活　第３班：ジェンダーと被服行動 ■問い合わせ先　事務局担当　柏尾　眞津子（Kashio　Matsuko）
e-mail:kashio@osk3.3web.ne.jpまで (2002.09.02)

【87 】■ 名古屋社会心理学研究会のお知らせ（名古屋大学・五十嵐拓、出口拓彦）
■ 2002年度第３回の名古屋社会心理学研究会を下記の要領で開催いたしますので、ご案内させていただきます。ご多忙中のこととは存じますが，ぜひ，ご出席下さいますようお願い申し上げます。■ なお，校舎の改修工事のため，今回の研究会は，現在の教育学部の校舎で行う最後の会となります。多くの方々のご参加をお待ちしております。■ また，研究会終了後にお食事会を開催いたします。ぜひ，みなさまにご参加いただければと存じます。当日，お食事会の申し込み用紙を回覧いたしますので，ご参加いただける方はご記入くださいますよう，お願い申し上げます。
■ 日　時：2002年10月26日（土）14:30〜16:30　※通常より30分早く開催いたします。
■ 場　所：名古屋大学教育学部　大会議室
■ 発表者：谷口淳一 氏（大阪大学大学院人間科学研究科）
■ 演　題：「異性との親密な関係における自己呈示〜親密であることは自己呈示動機を抑制するのか〜」
■ お問い合わせ先：名古屋社会心理学研究会事務局　〒480-8601　名古屋市千種区不老町　名古屋大学教育学部教育心理学教室内　担当：五十嵐・出口（拓）　Tel 052 (789) 2658/2659 (教室事務)　E-mail：b001208d@mbox.media.nagoya-u.ac.jp(2002.09.09)

★★　*会員移動*　★★

＜２００２年７月分まで＞

◆新入会員
　２６名（詳細省略）

◆住所・所属変更

２１名（詳細省略）

◆所属変更
１３名（詳細省略）

◆住所変更
２０名（詳細省略）

◆退会
３２名（詳細省略）

★★　事務局からのお願い　★★

◆実験社会心理学研究の特集テーマ募集
事務局では、実験社会心理学研究の特集号テーマを随時募集致しております。詳細は事務局までお問い合わせください。
◆実験社会心理学研究の書評候補募集
事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

★★　広報担当からのお知らせ　★★

◆広報担当は、新刊本に関する情報を広く募集しています。グルダイ会員に紹介したい書籍がありましたら、広報担当までご推薦ください。
◆ホームページは http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/ です。なお、このページに関するご意見・ご要望は、広報担当常任理事の廣岡（三重大学：shuhiro@edu.mie-u.ac.jp）もしくはHP担当幹事の三浦（大阪大学：asarin@syasin5.hus.osaka-u.ac.jp）までお知らせください。

★★　グルダイ学会関係連絡先　★★

◆第５０回大会準備委員会◆
大阪大学人間科学部　渥美研究室
〒565-0871　吹田市山田丘１－２　　大阪大学人間科学部
電話＆Fax:06-6879-8066　E-mail：jgda50@mbk.nifty.com（大会専用）
大会HP　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/50th/
◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見◆
岩手大学人文社会科学部　堀毛研究室
〒020-8550　岩手県盛岡市上田３－１８－３４　岩手大学人文社会科学部
電話・Fax：019-621-6842　E-mail：kekehori@iwate-u.ac.jp　QGB03376@niftyserve.or.jp
◆学会事務局◆
大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室
〒565-0871　吹田市山田丘１－２　　大阪大学人間科学部
電話＆Fax:06-6879-8066　E-mail：CXC02237@nifty.ne.jp
◆ニュースレター（ぐるだいニュース）の編集・記事の投稿◆
三重大学教育学部　廣岡研究室
〒514-8507　三重県津市上浜町１５１５　三重大学教育学部

電話・Fax：059-231-9329　E-mail：shuhiro@edu.mie-u.ac.jp

◆メールマガジン（JGDA_Flash）へのニュース記事投稿◆

新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報など、を募集しています。
E-mail：jgda_flash@epsycho.edu.mie-u.ac.jp　までお送りください。
また、登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

◆住所・所属変更◆

日本学会事務センター大阪事務所（学会センター関西　担当：山田範子）
〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
TEL　06-6873-2301　FAX 06-6873-2300　E-mail：nyamada@bcasj.or.jp

（編集後記）■お久しぶりのぐるだいニュースとなってしまいました。申しわけありません。■第23号のぐるだいニュースは、日本グループ・ダイナミックス学会の設立・運営に多大な貢献をされた故三隅二不二先生の追悼号として編集されました。先生の多大なるご貢献とご指導にあらためて感謝申し上げるとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。■しかし、悲しんでばかりはいられません。来年３月に予定されている大会は５０回記念大会となります。渥美準備委員長をはじめ、常任理事会を中心にした準備委員会では、これまでの伝統を受け継ぐとともに新たなる学会活動を模索しながら、真摯な議論が繰り返されています。■世はすでにブロードバンド時代です。このグルダイニュースの編集・発行も、時代的な背景を考えればもう少し即時性のある効率の良いものに発展させることも十分可能です。しかし、そこにはいくつかの大きな課題があるようで・・・。■もう少しでお役ご免です。最後の編集となる次号は、大会直前号として２００３年２月の発行を予定しています（廣）。

＜－－－－－SPSS社広告挿入－－－－－＞